

金沢市障害者スポーツ振興 ー障害がある人も参加しやすい地域スポーツの実現に向けてー

指導教員 北陸学院大学 人間総合学部 教授 田引俊和
参加学生 重間瑞羽・杉浦里緒・羽場美槻・村中絵子

1. 活動の成果要約

「金沢マラソン 2019」において、昨年に引き続きゴールエリアに障害ランナー用の多目的スペースを設置した。利用者は多く、ほぼ全員に配布したアンケート(回収は郵送法)では概ね高い評価を得た。

2. 活動の目的

本取り組みは、障害のある人たちも参加しやすい地域社会の実現に向けて検討を行うものである。具体的には、「金沢マラソン」に焦点を当て、障害がある人も参加しやすい地域スポーツイベントのあり方、諸課題の解決を目指す。

金沢マラソンは北陸新幹線開業の 2015 年から開催され、今回 (2019 年) は 5 回目となる。市内の主要観光地を含んだコース設定で、全国からおよそ 1 万 3 千人が参加する当地域を代表するスポーツイベントの一つとなっている。そのうち障害があるランナー (伴走者含む) の参加はおよそ 1 %弱となっているが、国民一般の障害比率 (6~7%) からすると、まだ潜在的な参加ニーズがあるものと推察される。

3. 活動の内容

これまで (2017 年度~2018 年度) の取り組み概要と今回 (2019 年度) の活動内容を以下に示す。

2017 年度 : 金沢マラソン 2017 に参加する障害があるランナーを対象としたアンケート調査を初めて実施した (図表 1)。全体的な評価や金沢観光に関する質問を設定していたが、自由記述回答欄には「障害ランナー特有のニーズ」がみられた。なお、調査票配布に際しては事前に大会組織委員会に内容を示し了解を得たうえで、回答はすべて無記名で、結果は統計的に処理され個人が特定されない旨調査票上に記した。



図表 1 : 前日、前々日の受付 (金沢駅) での障害ランナーへのアンケート協力依頼

2018年度：この結果をもとに翌年（＝取り組み2年目）は最もニーズが多かったゴールエリア内に障害ランナー（伴走者含む）専用の多目的スペースを設置した（図表2、3手前のテント）。テント内は、小さく区分けした更衣用個室と休憩エリアを設け、自由に使えるストレッチ用具も設置した。ゼッケン番号により、専用スペースであることを表示した。予想よりも高い利用率と評価であった（予想以上の稼働で、混雑のため利用できない人が複数いた）。



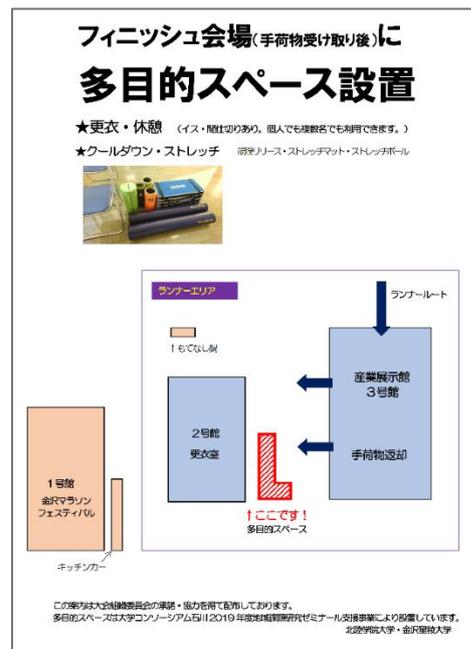
図表 2、3：ゴールエリア内に設置した多目的スペーステント

2019年度：これらをふまえ、3年目となる今年は次のことに取り組み、障害がある人も参加しやすい当地域のスポーツイベントとなるよう環境整備を目指した。

- ① 障害ランナー専用の多目的スペースの拡充と適切な案内を行う（図表2～6）。
- ② 必要に応じて、障害ランナーへの情報提供、コミュニケーションを図る。
- ③ 引き続き金沢マラソンに対する障害ランナーのニーズ・評価に関するアンケート調査を実施（図表1）。



図表 4：受付での多目的スペースの説明



図表 5：説明とともに配布した案内
(大学コンソーシアム石川の助成であることを記した)



図表 6 : 大会組織委員会による会場案内図の表示

4. 活動の成果

前述の活動内容（今年度の目標）はをほぼ遂行できたと考える。項目ごとに以下に示す。

- ① 障害ランナー専用の多目的スペースの拡充と適切な案内
- ② 障害ランナーへの情報提供、コミュニケーションを図る
→金沢市文化スポーツ局、大会組織委員会との連携により拡充し、対象者のほぼ全員に多目的スペースの案内をした。聴覚障害ランナーについては簡単な手話を覚えコミュニケーションを試みた。
- ③ 障害ランナーのニーズ・評価アンケート調査を実施
→対象者のほぼ全員にアンケートの協力依頼をした。配布 91、回収 54、回収率 59.3%であった。また、多目的スペースの案内をした障害ランナーの（91人）うち、半数以上（52.8%）の48人の利用があった。その評価の平均は5段階評価で4.23であった。

また、この取り組みは金沢市文化スポーツ局、および大会組織委員会との連携により実現している。本テーマに対する大学と地域連携の一つの形となったと考える。

なお、予定していた「本取り組みをまとめ、広く社会に発信する（計画では市民向けパラスポーツイベント）」については実現できなかった。また、連携を予定していた金沢星稷大学については、都合により教員のみでの参加であった。

5. 次年度の計画

金沢マラソンは当地域を代表するスポーツイベントであり、また、ゴール後の障害ランナー専用のスペースは全国的にみても先駆的なもので、その意義は障害があるランナーや金沢市文化スポーツ局（金沢マラソン組織委員会）にも理解、共有されてきている。

これまでの3年間の取り組みをふまえ、本取り組みの終了後も継続できるような体制を検討、提案する。連携先である金沢市文化スポーツ局、および金沢マラソン組織委員会とともに当地域の障害者スポーツの普及・振興に取り組んでいく。

6. 活動に対する地域からの評価

前述の通り、本取り組みの意義と必要性は金沢市文化スポーツ局、金沢マラソン組織委員会で認識されている。また、実際に多目的スペースを利用した障害ランナーからも昨年に引き続き高い評価を得ている。以下に、回答者の概要と評価コメントを示す。(図表7、8)。また、本取り組みは翌日の北國新聞に掲載された。

図表7：回答者の属性（未記入部分があったため合計が異なる）

障害種別		年齢		居住地	
聴覚言語	15人	20代	9人	石川県内	22人
内部障害	6	30代	14	北海道東北	1
知的障害	11	40代	14	関東甲信越	14
肢体不自由	8	50代	6	東海北陸	2
視覚障害	3	60代	5	近畿	11
精神障害	6	70代	2	中国四国	0
伴走者・その他	1			九州沖縄	1

図表8：自由記述コメントの内容

- ・ 障害者、家族（介助者）にとって、誘導・多目的スペースなどの支援は大変助かり、今後も継続してほしい。
- ・ フィニッシュ後の多目的スペースは、雨でずぶ濡れで走ったあとで体が思うような姿勢が取りづらく着替えが大変なので助かった。
- ・ 金沢マラソンは障害者に対して参加しやすく、また対応も素晴らしいと思います。
- ・ 多目的スペースの大学生（女性）が手話で「おつかれさま」と言ってくださって嬉しかったです。来年もよろしくお願いします。
- ・ 多目的スペースは快適で非常に助かりました。ありがとうございました。
- ・ 多目的スペースのスタッフに手話ができる人がいるとなお良かった。
- ・ 昨年よりも雨降りの時間が長かったのでやむを得なかったかもしれませんが、多目的スペースの一部が濡れていた。
- ・ 多目的スペースは屋内に設置してほしい。